

沖縄島近海から得られた日本初記録のハナダイ科魚類 *Sacura parva* タスキサクラダイ (新称) および本種の標徴の再整理

饗場空璃¹・宮本 圭²・芦田裕史³

Author & Article Info

¹ 高知大学理工学部海洋生物学研究室 (高知市)
sorari0628deepsea@gmail.com (corresponding author)

² 沖縄美ら島財団総合研究所 (本部町)
k-miyamoto@okichura.jp

³ 沖縄美ら海水族館 (本部町)
h-ashida@okichura.jp

Received 02 September 2025
Revised 23 September 2025
Accepted 23 September 2025
Published 24 September 2025
DOI 10.34583/ichthy.59.0_18

Sorari Aiba, Kei Miyamoto and Hiroshi Ashida. 2025. First Japanese record of *Sacura parva* (Perciformes: Anthiadidae) from Okinawa-jima island, Ryukyu Archipelago, Japan, with assessment of the diagnosis of the species. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 59: 18–23.

Abstract

Five specimens (92.9–108.9 mm in standard length) of *Sacura parva* Heemstra and Randall, 1979 (Anthiadidae), were collected from Okinawa-jima island, Ryukyu Archipelago, Japan. Considering both the present specimens and information available from previous studies of *S. parva*, the diagnosis of the species is herein redefined as follows: dorsal-fin soft rays 16–18; pored lateral-line scales 33–35; lower limb gill rakers 24–26; body depth greater than head length; pectoral-fin length 29.9–36.0% SL; pelvic fins with a broad yellow posterior margin; broad reddish-orange band extending from nape to middle of body and continuing to base of caudal fin; caudal fin reddish and without any pigments. In addition, the increase in the number of serrae along the margin of the preopercle with growth was reconfirmed. Based on gonadal observations, two of the examined specimens were identified as a mature male and female, respectively; however, no clear sexual dichromatism was observed. The species has previously been recorded from Australia, Indonesia, Philippines, and Taiwan. Thus, the present specimens represent the first Japanese record and northernmost record for the species. The new standard Japanese name “Tasuki-sakuradai” is proposed for *S. parva*, in referring to its broad, band-like coloration traversing the lateral side.

ハナダイ科サクラダイ属 (Anthiadidae: *Sacura* Jordan and Richardson, 1910) は背鰭が10棘14–18軟条、胸鰭

16–18軟条、臀鰭3棘7軟条、側線有孔鱗数が26–30、第1鰓弓下枝の鰓耙数が22–33、標準体長に対する体高の割合が41–50%、背鰭棘条部中央が背鰭軟条より低いことなどの形質の組み合わせにより特徴づけられる (Heemstra and Randall, 1979; 中村・本村, 2022)。本属には *S. bou-lengeri* (Heemstra, 1973)、サクラダイ *S. margaritacea* (Hilgendorf, 1879)、*S. parva* Heemstra and Randall, 1979、*S. sanguinea* Motomura et al., 2017 および *S. speciosa* Heemstra and Randall, 1979 の5有効種が知られており (Heemstra and Randall, 1979; Motomura et al., 2017)、そのうち日本国内からはサクラダイのみが報告されている (瀬能, 2013; 吉田ほか, 2017)。

2019年2月から2023年3月にかけて、沖縄島近海から5標本のサクラダイ属魚類が採集され、精査の結果日本国内では記録のない *S. parva* に同定された。本種は1979年にオーストラリア北東部のティモール海から得られた2標本に基づき新種記載され、その後はオーストラリア北西部、インドネシア南部および台湾北部からの記録が知られるのみの稀種である (Heemstra and Randall, 1979; Allen et al., 2006; White et al., 2013; Lai and Chen, 2021)。したがって今回得られた標本は本種の北限記録であると同時に、日本国内からの初記録となる。また十分に知られていなかった本種の形態や色彩に関する情報を補強するものであることからその詳細を記載した。なお、本種には標準和名が与えられていなかったため、本研究で記載した標本に基づき新標準和名タスキサクラダイを提唱する。

材料と方法

計数計測方法は Heemstra and Randall (1979) に従った。標準体長は体長または SL、頭長は HL とそれぞれ略記した。体の各部位の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで計測した。体側鱗および鰓耙数の観察にはサイアニンブルーによる染色を行い、双眼実体顕微鏡を用いた。性別の確認はヘマトキシリン・エオシン染色を施した生殖腺切片を観察する方法で行った。OCF-P10515 および OCF-P10778

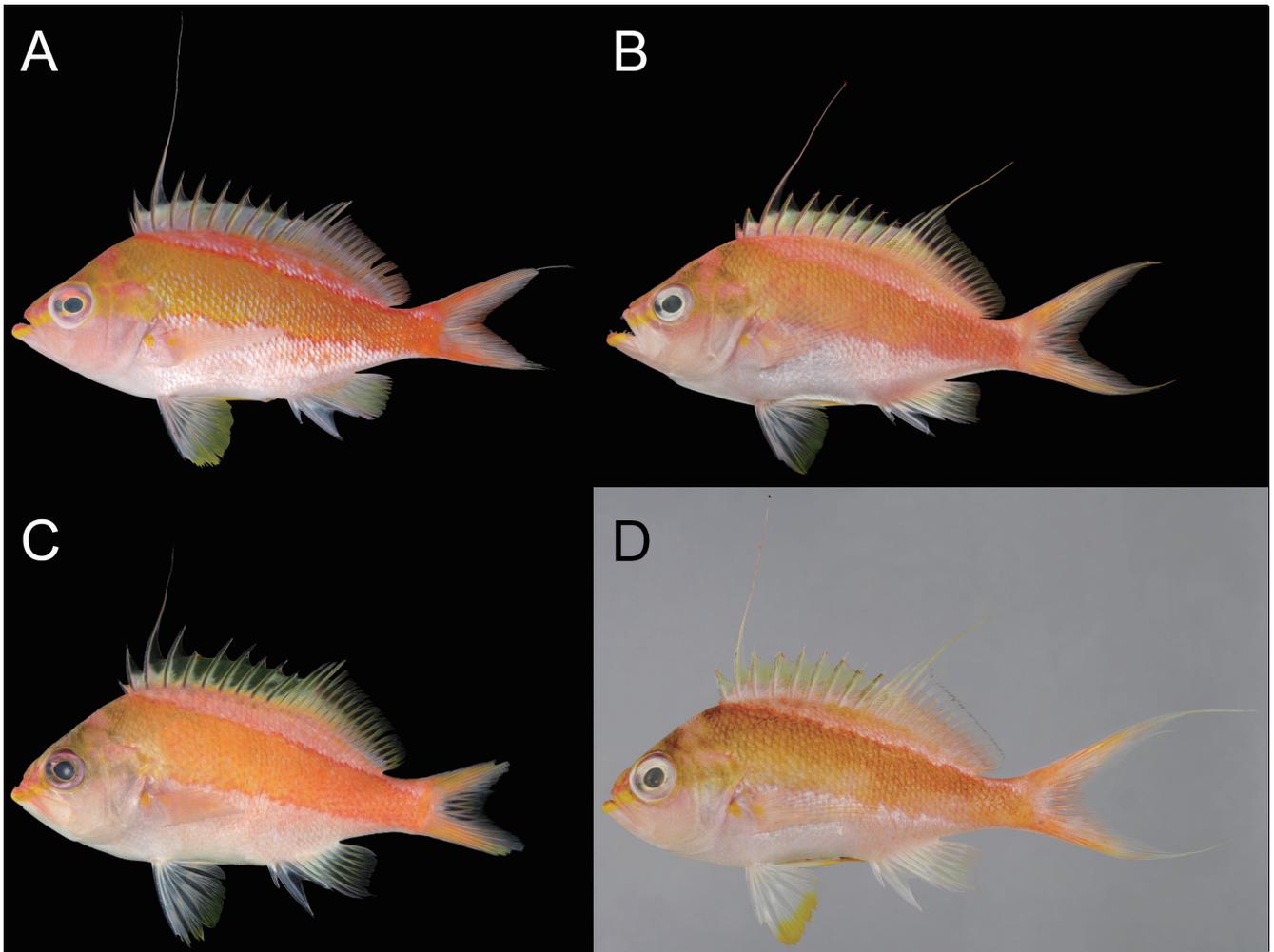


Fig. 1. Fresh specimens of *Sacura parva* from Okinawa-jima island, Ryukyu Archipelago, Japan. A: OCF-P04069, 104.8 mm SL; B: OCF-P10474, 104.2 mm SL; C: OCF-P10515, 108.9 mm SL; D: OCF-P10516, 92.9 mm SL.

は沖縄美ら海水族館での飼育履歴があり、病理解析を行う目的で右体側の第一鰓弓が摘出されているため、左体側の第一鰓弓に基づき鰓耙数を計測した。色彩の記載は生鮮時および生時に撮影したデジタルカラー写真に基づいた。本報告に用いた標本は一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究所 (OCF) に登録・保管されている。

Sacura parva Heemstra and Randall, 1979

タスキサクラダイ (新称)

(Figs. 1, 2; Table 1)

標本 5 標本 (92.9–108.9 mm SL) — 沖縄県国頭郡本部町沖 (26°39'51–57"N, 127°46'38–46"E) : OCF-P04069, 104.8 mm SL, 雄, 水深 165 m, 2019 年 2 月 18 日, 釣り, 平安山良真; OCF-P10474, 104.2 mm SL, 性別不明, 水深 130 m, 2021 年 9 月 22 日, 釣り, 金子篤史・東地拓生・宮本 圭; OCF-P10515, 108.9 mm SL, 雌, 水深 150–200 m, 2021 年 12 月 28 日, 釣り, 比嘉俊輝・諸田大海. 沖縄県中頭郡北谷町沖 (26°20'30"N, 127°41'40"E) : OCF-P10516, 92.9 mm SL, 性別不明, 水深 130–160 m, 2022 年 4 月 18 日, 釣り,

比嘉俊輝・諸田大海; OCF-P10778, 97.6 mm SL, 性別不明, 水深 130–160 m, 2023 年 3 月 16 日, 釣り, 比嘉俊輝・諸田大海・宮本 圭.

記載 計数形質と体各部の標準体長または頭長に対する割合を Table 1 に示した。体は楕円形で側扁する。体背縁は吻端から背鰭第 1 棘基底まで緩やかに上昇するが、眼窩直上付近でわずかに凹む。背鰭第 1 棘から第 6 棘の基底までの体背縁は体軸とほぼ並行で、そこから尾柄部中央付近にかけて緩やかに下降し、その後は尾鰭基底上端にかけて緩やかに上昇する。体腹縁は下顎先端から腹鰭にかけて下降し、腹鰭基底から臀鰭起部までは体軸とほぼ並行で、その後は尾鰭基底下端にかけて緩やかに上昇する。口は斜位で、下顎先端は上顎先端より突出する。口裂は大きく、主上顎骨後縁は瞳孔中央に達する。上顎には 1 列の円錐歯を有し、前方に 1 対のやや大きな犬歯状歯があり、その内側に絨毛状歯帯をもつ。下顎には絨毛状歯帯を有し、側方の中央付近に左右 2 対のやや大きな犬歯状歯がある。鋤骨は V 字型で絨毛状歯帯を有する。舌上の歯は先端部を除き絨毛状歯帯を形成する。吻端はやや尖り、吻長は眼径よりやや短い。前鼻孔は短い鼻管を有し吻端と眼窩前縁

間の中央より後半に位置する。後鼻孔は裂孔状で、前鼻孔の斜め上後方かつ眼窩付近に位置する。眼は正円形で大きく、瞳孔はやや歪んだ涙型で前部が尖る。涙骨下縁は平滑。主鰓蓋骨上部後端に扁平な3本の棘を有し、中央のものが最大で、上方のものが最小。主鰓蓋骨後縁下部は鋸歯状。前鰓蓋骨縁は鋸歯状で、鋸歯数は下縁が1–6、後縁が28–32。前鰓蓋骨隅角部の鋸歯は大きい。間鰓蓋骨下縁後部から下鰓蓋骨後縁にかけて連続した鋸歯を有し、鋸歯数は10–15。後側頭骨後縁は鋸歯状。背鰭起部は鰓孔上端の直上に位置し、背鰭基底後端は臀鰭基底後端より後方に位置する。背鰭棘は第3棘、背鰭軟条は第3軟条が最長でそれぞれ糸状に伸長する。背鰭棘部の鰭膜の切れ込みは前方ではやや深く、後方へ向かい浅くなる。臀鰭起部は背鰭第1軟条基底直下、臀鰭基底後端は背鰭第11軟条基底直下にそれぞれ位置する。胸鰭基底は背鰭第3棘基底直下に位置する。胸鰭は第9軟条が最長で、先端は臀鰭第1棘基底直上を越える。腹鰭は胸鰭基底直下に始まり、倒した際の

先端は肛門を越える。尾鰭は深い湾入形で両葉は糸状に伸長する。口唇、吻部および鰓膜を除き、体は櫛鱗に覆われ、背鰭・臀鰭軟条部の基底からおよそ1/2、胸鰭の基底からおよそ1/3、および尾鰭基部は体側より小さい鱗で被鱗する。側線は完全で、管状に開口した有孔鱗からなり、鰓蓋上方から背鰭第5棘基底直下にかけて上昇し、その後は体背縁に沿って下降しながら尾柄部に至る。

色彩 鮮時の色彩 (Fig. 1) — 体側の地色は桃色で、頭部背面の地色は濃桃色を呈し、頭部側面および腹面では淡桃色となる。下顎先端から眼窩前縁にかけて細く明るい黄色の斜帯、眼窩後縁から鰓蓋後端にかけて瞳孔径よりやや太い暗い黄色の縦帯がそれぞれはしり、頭部の地色の桃色は黄色帯を境にして背縁側が濃く、腹縁側が薄い。眼窩上後方に不規則な黄色斑をもつ (OCF-P10474, OCF-P10515, OCF-P10516 では緑黄色)。虹彩の地色は黄色で、外縁部は淡赤色を呈する。項部から尾鰭基部にかけて幅広の黄色斜走帯をもち (OCF-P10474 では緑黄色, OCF-P10516 で

Table 1. Counts and measurements of *Sacura parva* from Okinawa Prefecture, Japan.

	This study		Heemstra and Randall (1979)	Lai and Chen (2021)
	Okinawa-jima island	mode (n)	Timor Sea	Northern Taiwan
	Non-types		Holotype	Non-type
Standard length (SL; mm)	92.9–108.9		67	144.3
Counts		mode (n)		
Dorsal-fin rays	X, 16–18	X, 17 (5)	X, 17	X, 17
Anal-fin rays	III, 7–8	III, 7 (5)	III, 7	III, 7
Pectoral-fin rays (L/R)	16–17	17 (5)	16	16
Pored lateral-line scales	33–35	35 (4)	34	34
Scale rows above lateral line	3½	3½ (5)	3½	—
Scale rows below lateral line	21–22	21 (5)	—	—
Scale rows on cheek	7	7 (5)	7	—
Circumpeduncular scales	22	22 (5)	—	20
Gill rakers on first arch	11 + 25–26	11+26 (5)	11+26 (R)	9 + 24 (R)
Measurements (% of SL)		mean (n)		
Body depth	41.1–42.8	42.2 (5)	44.0	45.3
Head length	34.8–37.0	36.3 (5)	37	35.8
Pectoral-fin length	29.9–31.0	30.6 (3)	36	34.4
Pelvic-fin length	23.5–26.1	24.5 (5)	31	25
Caudal-peduncle depth	12.0–13.2	12.7 (5)	19	13.2
Caudal-peduncle length	21.7–24.4	22.6 (5)	13	18.4
1st dorsal-fin spine length	4.9–7.7	6.5 (4)	7.4	5.9
2nd dorsal-fin spine length	8.3–13.1	11.0 (5)	12	10
3rd dorsal-fin spine length	45.7–54.6	48.9 (3)	36	42.9
4th dorsal-fin spine length	13.1–17.0	15.2 (5)	19	13.5
3rd dorsal-fin soft ray length	39.4	39.4 (1)	55	52
Anal-fin length	25.0–32.1	27.8 (5)	28	broken
1st anal-fin spine length	7.1–8.1	7.7 (5)	9	7.3
2nd anal-fin spine length	15.6–18.6	17.2 (5)	20	14.1
2nd dorsal-fin soft ray length	17.8–26.0	21.4 (5)	23	14.8
Pelvic-fin spine length	17.6–21.0	19.0 (5)	23	broken
Measurements (% of HL)				
Snout length	20.5–25.7	24.1 (5)	21	25.8
Orbit diameter	31.4–35.6	33.7 (5)	34	26.7
Interorbital width	24.8–27.7	26.0 (5)	24	26.2
Postorbital length	44.9–49.0	46.8 (5)	44	broken
Upper-jaw length	43.5–47.7	45.8 (5)	44	42.4
Maxillary depth	16.6–17.6	17.1 (5)	16	17.4

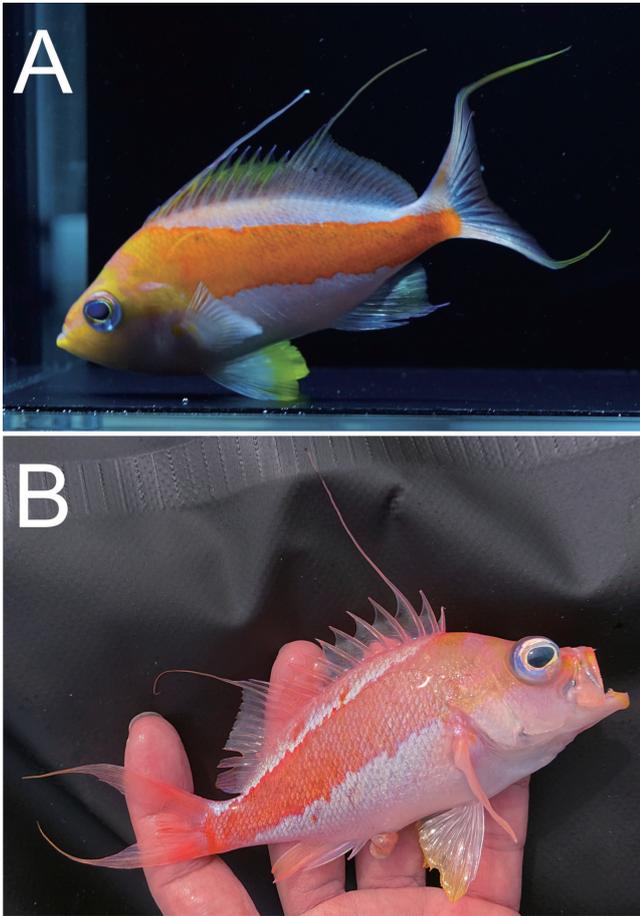


Fig. 2. Live individuals of *Sacura parva*. Kept at Okinawa Churaumi Aquarium (OCF-P10778, 97.6 mm SL; photographed by T. Higa); B: Immediately after capture by angling (OCF-P04069, 104.8 mm SL).

は黄褐色), 尾鰭基部へつれて赤みが強くなる。この黄色斜走帯の幅は前端で背鰭第1棘基底から鰓蓋後端まで, 後端では尾鰭基底の下部から4分の3程度。黄色斜走帯の上下縁は濃い赤色で縁取られる。黄色斜走帯を除く体側面上部に不規則な赤色斑がある(OCF-P10474, OCF-P10515, OCF-P10516ではもたない), 体側面下部は峽部から尾鰭基底下部にかけて銀白色を呈する。臀鰭基底直上に不明瞭な黄色斑をもつ(OCF-P10474, OCF-P10515, OCF-P10516ではもたない)。胸鰭基部および胸鰭軟条中央部の上方にそれぞれ1黄色斑をもつ。背鰭棘部の鰭膜は基底から切れ込みの下端まではやや黄緑色を帯びた白色で, 切れ込み下端から先端部までは白色半透明。背鰭軟条部は下半が白桃色を呈し, 上半がやや薄橙色を帯びた半透明で, 外縁は黒色で縁取られる。臀鰭は下半が白色半透明で上半がやや黄緑色を帯びた白色。胸鰭は白色半透明。腹鰭は基部付近では白色半透明で, 外縁は幅広く黄色で縁取られる。尾鰭は赤色で, 上縁および下縁が濃く, 中央部は淡い。

生時の色彩 (Fig. 2A) — 躯幹部の地色は一様に白色。頭部背面は薄桃色を呈す。下顎先端から眼窩前縁にかけて細い黄色斜帯, 眼窩後縁から鰓蓋後端にかけて瞳孔径より

やや太い黄色の縦帯がそれぞれはしる。眼窩上後方に不規則な黄色斑をもつ。虹彩の地色は薄桃色で, 下部は濃青色を呈する。項部から尾鰭基部にかけて橙色の幅広の斜帯をもち, 斜帯の上下縁は濃橙色でかすかに縁取られる。胸鰭基部および胸鰭軟条下部にそれぞれ1黄色斑をもつ。背鰭棘部の鰭膜は基底から中央部までが白色半透明で, 中央部から先端部にかけて緑黄色。背鰭軟条部は青みがかった白色半透明で, 第1-3軟条の中央部から先端までの外縁と第4軟条から背鰭最終軟条の外縁は緑黄色。臀鰭の地色は青みがかった白色半透明で, 臀鰭第1・2軟条先端部は薄紫色。腹鰭は基部付近では青みがかった白色半透明で, 外縁は幅広く黄色に縁取られる。尾鰭の地色は白色半透明。尾鰭の地色は白色半透明で, 基底および両葉外縁の基底側から1/2は橙色(OCF-P10474, OCF-P10515, OCF-P10516は薄橙色), 伸長鰭条を含む先端部1/2は黄緑色。

固定時の色彩 — 下顎先端から眼の前縁にかけて細い濃茶色の斜帯が走る。眼の後縁から鰓蓋後端へかけて細い縦帯が走る, 項部から尾鰭基部にかけて幅広い茶色の斜帯がはしり, 前方から後方に向かうにしたがって淡くなる。眼窩上後方に不規則な濃茶色斑をもつ。尾鰭は薄い黄色。胸鰭, 背鰭, 腹鰭, および臀鰭はやや黄色を帯びた白色。

分布 本種はオーストラリア北方のティモール海およびバロー島(Heemstra and Randall, 1979; Allen et al., 2006), インドネシアのジャワ島からティモール島にかけての南方海域(White et al., 2013) および台湾北東部の宜蘭県沖(Lai and Chen, 2021) から標本に基づき報告されており, 本研究により沖縄島近海からも記録された。また, 水中写真によりフィリピンのアニラオから確認されている(Rowlett, 2017)。

備考 沖縄島近海から得られた5標本は背鰭軟条数が16-18, 側線有孔鱗数が33-35, 下枝鰓耙数が24-26, 体高が頭長より大きい, 生鮮時に下顎先端から眼窩前縁にかけて細い黄色帯をもつ, 項部から尾鰭基部にかけて幅広い黄色斜走帯をもつ, 体側面下部が銀白色, 背鰭および臀鰭軟条がそれぞれ白色半透明で, 背鰭軟条外縁が黒く縁取られる, 腹鰭は幅広い黄色帯で縁取られる, 尾鰭は赤色で斑紋をもたないなどの特徴をもつ。これらはHeemstra and Randall (1979), White et al. (2013), Motomura et al. (2017) およびLai and Chen (2021) が示した*Sacura parva*の識別的特徴とほぼ一致したことから, 本種に同定された。

記載標本は体長に対する体高, 胸鰭長, 尾柄長, 背鰭第3棘長, 背鰭第3軟条長および腹鰭棘長において既報の計測値との間に差異が見られた(Table 1)。しかし, これまでに計測・計数値が報告された本種の標本はわずか2個体と少数であり(Heemstra and Randall, 1979; Lai and Chen, 2021), 本種の種内変異の幅が十分に明らかになっていない可能性が高いこと, サクラダイ属において上記の

計測項目には広い変異幅が存在することが知られ、本研究で認められた上記のような差異は種内変異の範囲内とみなされることから(例えば, Heemstra and Randall, 1979; Peinemann et al., 2022), 本研究ではこれらを種内変異と判断した。また, 前鰓蓋骨後縁の鋸歯数については記載標本が28–32に対し, ホロタイプが19と大きな差異がみられた。Heemstra and Randall (1979: fig. 2) は本種の前鰓蓋骨の鋸歯が成長に伴い増加することを図示しており, ホロタイプ(67 mm SL) と記載標本(92.9–108.9 mm SL) の間に認められた前鰓蓋骨後縁の鋸歯数の差異は, 成長に伴う鋸歯数の増加に起因するものと判断した。

本研究では記載標本全ての腹部を切開し, 生殖腺の観察を試みた。OCF-P04069の生殖腺は精子で満たされており, 成熟雄と判断された。一方, OCF-P10515の生殖腺は成熟期を含む様々なサイズの卵が確認されたことから, 成熟雌と判断された。OCF-P10474, OCF-P10516, および OCF-P10778 は生殖腺の状態が著しく悪かったことから組織切片による観察は行っておらず, 性別も不明である。いずれにおいても性転換を示す証拠は確認されていない。同属のサクラダイは雌性先熟の性転換を行うことが知られており, 幼魚期および雌性時には背鰭棘条後半部に黒色斑をもつが, 雄として成熟するとこの斑紋は消失することが報告されている(Okada, 1965a, b; 鈴木ほか, 1974)。*Sacura parva* においても Heemstra and Randall (1979) にて雄として示されたホロタイプ(67 mm SL) は背鰭棘条中央部に黒色斑をもたず, 小型個体であるパラタイプ(16.8 mm SL) は背鰭棘条中央部に明瞭な黒色斑を有しており, 体色の変化を伴う雌性先熟の性転換を行うことが示唆されている。しかし, 本研究において成熟雌と判断された OCF-P10515 は背鰭棘条中央部に黒色斑をもたず, 雄型の色彩を示す(Fig. 1 C)。本種の性転換とそれに伴う体色の変化については不明な点が多く, 全容解明にはさらなる調査が必要である。

Sacura parva は同属他種と以下のような特徴によって識別可能である。*Sacura boulengeri* とは背鰭軟条数が16–18であること(vs. 14), 側線有孔鱗数が33–35であること(vs. 30–33), 下枝鰓耙数が24–26であること(vs. 30–33), 体高が頭長より長いこと(vs. 短い), 鮮時において項部から尾鰭基部にかけて幅広の黄色斜走帯をもつこと(vs. もたない); サクラダイとは側線有孔鱗数が33–35であること(vs. 26–30), 鮮時において項部から尾鰭基部にかけて幅広の黄色斜走帯をもつこと(vs. もたない); *S. sanguinea* とは背鰭軟条数が16–18であること(vs. 15), 鮮時において項部から尾鰭基部にかけて幅広の黄色斜走帯をもつこと(vs. 項部から体側中央部までが黄色, 体側中央部から尾鰭基底にかけては赤色の幅広い帯状模様を呈す), 腹鰭は幅広い黄色帯で縁取られること(vs. 腹鰭前部が黄色を

呈す), 尾鰭は赤色で斑紋をもたないこと(vs. 尾鰭は黄色で中央部に明瞭な赤色斑をもつ); *S. speciosa* とは背鰭軟条数が16–18であること(vs. 15), 胸鰭長が29.9–36.0 % SLであること(vs. 41–43 %), 項部から尾鰭基部にかけて幅広の黄色斜走帯をもつこと(vs. もたない)(Heemstra and Randall, 1979; Motomura et al., 2017; Lai and Chen, 2021; Peinemann et al., 2022; 本研究)。また, Lai and Chen (2021) は *S. parva* が *S. sanguinea* と比較して体高が高いことで識別されることを示したが, 本研究により *S. parva* の種内変異の範囲が広がり, 体高が体長に占める割合が41.1–45.3 %であるのに対し, *S. sanguinea* では42.6–44.7 %と重複することから, この形質は両種の識別的特徴としては不適當であると判断した。

本種はこれまでオーストラリア北西部から台湾南部にかけての西太平洋から報告されていたが, 記載標本により初めて日本近海における分布が確認され, 本種の分布の北限が更新された(分布の項を参照)。また, 本種の生息水深は50–130 m とされていたが(Heemstra and Randall, 1979; White et al. 2013; Lai and Chen, 2021), 本研究で記載した標本はそれよりも深い水深130–200 m より得られたため, 本種がこれまで知られていた範囲より深い水深帯にも分布することが示された。

本種にはこれまで標準和名が与えられていないため, OCF-P04069(104.8 mm SL) に基づき新標準和名「タスキサクラダイ」を提唱する。タスキとは櫂の意で, 体側面の黄色斜走帯に因む。

謝 辞

本研究に際し, 金子篤史氏, 高岡博子氏, 東地拓生氏, 諸田大海氏(沖縄美ら海水族館), 比嘉俊輝氏(Okinawa Sakana Company), および沖縄美ら海水族館深海展示チームのスタッフの皆様には標本の採集, 飼育および生体写真の撮影等で大変お世話になった。また, 海耕丸船長の謝花喜和氏, 琥珀丸船長の新崎盛郎氏, および平安山良真氏には標本の採集にご協力いただいた。高知大学理工学部海洋生物学研究室の小川峻輔氏にはハナダイ科魚類について有益なご助言をいただいた。Ichthy 担当編集委員の和田英敏氏と査読者の松尾 怜氏には本稿の改訂に際して適切なご助言をいただいた。以上の方々に対し, 謹んで感謝の意を表す。

引用文献

- Allen, G. R., D. F. Hoese, N. J. Cross and D. J. Bray. 2006. Anthiinae, pp. 982–997. In Hoese, D. F., D. J. Bray, J. R. Paxton and G. R. Allen (eds.) Zoological Catalogue of Australia. Vol. 35. CSIRO Publishing, Collingwood.
- Heemstra, P. C. and J. E. Randall. 1979. A revision of the anthiinae fish genus *Sacura* (Perciformes: Serranidae) with descriptions of two new species. JLB Smith Institute of Ichthyology Special Publication, 20: 1–13.

- Lai, N.-W. and H.-G. Chen. 2021. New record of a rare anthiadine, *Sacura parva* Heemstra and Randall, 1979 from northern Taiwan. *Journal of the Fisheries Society of Taiwan*, 48: 101–104.
- Motomura, H., T. Yoshida and V. Vilasri. 2017. New species of the anthiadin genus *Sacura* (Perciformes: Serranidae) from the Andaman Sea. *Zootaxa*, 4306: 291–295.
- 中村潤平・本村浩之. 2022. ハタ科 Serranidae とされていた日本産各種の帰属, および高次分類群に適用する標準和名の検討. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 19: 26–43.
- Okada, Y. K. 1965a. Sex reversal in the serranid fish, *Sacura margaritacea*. I Sex characters and changes in gonads during reversal. *Proceedings of the Japan Academy*, 41: 737–740.
- Okada, Y. K. 1965b. Sex reversal in the serranid fish, *Sacura margaritacea*. II Seasonal variations in gonads in relation to sex reversal. *Proceedings of the Japan Academy*, 41: 741–745.
- Peinemann, V. N., L. Pombo-Ayora, J. E. M. Cochran, F. Marchese, G. Chimienti, M. Rodrigue, A. A. Eweida, P. A. Marshall, F. Benzoni and M. L. Berumen. 2022. First record of Boulenger's anthias *Sacura boulengeri* (Heemstra 1973) in the Red Sea. *Journal of Fish Biology*, 102: 294–298.
- Rowlett, J. 2017. First live image of the Little Fairy Basslet (*Sacura parva*), Reefs.com. [URL](#) (30 Aug. 2025)
- 瀬能 宏. 2013. ハタ科, pp. 757–802, 1960–1971. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 鈴木克美・小林弘治・日置勝三・坂本隆志. 1974. 駿河湾におけるサクラダイ *Sacura margaritacea* の生態. *魚類学雑誌*, 21: 21–33.
- White, W. T., P. R. Last, Dharmadi, R. Faizah, U. Chodrijah, B. I. Prisantoso, J. J. Pogonoski, M. Puckridge and S. J. M. Blaber. 2013. Market fishes of Indonesia. Australian Centre for International Agricultural Research, Canberra. 438 pp.
- 吉田朋弘・高山真由美・本村浩之. 2017. トカラ列島中之島から得られた琉球列島初記録のハタ科サクラダイ. *Nature of Kagoshima*, 43: 111–116.